大宮

THE ŌMIYA HACHIMAN

遷宮で結ぶ人の輪心の輪
第６２回 神宮式年遷宮

平成25年（2013）
御鎮座950年式年大祭

平成26年(2014)
皇紀2674年

平成２６年 新春号 【第９８号】
http://www.ohmiya-hachimangu.or.jp/

主な目次

年頭所感……２頁
新春初詣……３頁
御鎮座950年式年奉祝大祭・奉納神事……４頁
早春の行事……７頁
杜の話題……９頁
初宮詣芳名・どんぐり通信……１２頁
正月社頭風景……１４頁

御鎮座九百五十年式年奉祝奉納

「子守神功皇后之図（こもりじんぐうこうごうのず）」 絵幟り師・辰昇（しんしょう）（吉田博之氏）

平成二十六年甲午歳の新春に当たり
謹んで皇室を中心とする国家の隆昌と
氏子・崇敬者の皆様のご清福を熱祷申し上げます

宮司　鎌田紀彦

お陰様で昨年は、当宮御鎮座九百五十年の式年に当り、式年大祭（5月5日）と式年奉祝大祭（9月15日）を中心に、１１３名ものお稚児さんの参加を得た奉祝の稚児行列や鎌倉絵巻を彷彿とさせる小笠原流流鏑馬神事、裏千家献茶式、いけばな小原流献花式、志野流香道献香式等数々の祭事や奉祝神賑行事が盛大に賑々しく執り行われ、多くの参詣者で連日ご社頭が賑わった一年間でありました。

鎌倉時代の御成敗式目に、

「神は人の敬により威を増し
人は神の徳によりて運を添ふ」

とありますように、氏子・崇敬者各位の真心からのご奉賛やご崇敬の念によるご奉仕により、多くの方々にご参詣頂き盛大に式年大祭を斎行させて頂き、八幡大神様の広大無辺なご神威がより高められ、いよいよ輝く中での秋の式年奉祝大祭で、更に氏子・崇敬者の皆様も大神様に祈りとご神恩に感謝の真心を捧げられたことに依って、更にご神縁のより高められたご神徳をお受けになって、物事が成就し益々繁栄することの出来る幸運をお受け下さったことと思っております。

昨秋は、20年毎の第62回神宮式年遷宮の最重儀遷御の儀が、浄闇の中厳粛裡に、内宮・外宮とも滞りなく斎行されました。（私は10月2日の皇大神宮遷御の儀の特別奉拝が許され参列させて頂きました。）

神代につながる神事が、1，３００年連綿と受け継がれてきて、今また20年ぶりに蘇られたことは、両宮の皇大神様のご神威も神代に立ち返って瑞々しく若々しくよみがえられ、その恩恵によりあらゆるものの生命も蘇り、国も再生し若返り、永遠の発展・繁栄を祈念するのも遷宮と云われております。

天津神の神宮のみならず、国津神の出雲大社も５月に60年ぶりの平成の大遷宮もありました。この佳年に当宮も式年大祭と奉祝大祭を中心にご奉仕させて頂き、この有意義で大切な尊い年の巡り合わせに不思議なご神縁を感じとらせて頂き、身の引き締まる思いでありました。

私ども神職は、これ等の神祭りの心を受継ぎ祈りと感謝の誠の心を以て、心新たに神明奉仕に精進させて頂き、更に次世代、子孫の時代へと継承して行かねばならないと新春を迎え、誓いと覚悟を新たに致しているところでございます。

今回の遷宮の行われた神宮の参拝者が、平成25年度は激増し1，３００万人に達する見込みとの事。江戸時代の「お蔭参り」の再来とも云われ、戦後４回目の遷宮にしてやっと国民に知れ亘り神宮の存在がクローズアップされて来ました。有難い事であります。またマスメディアでも大きく取り上げられ、遷御の儀の様子が各家庭の茶の間のテレビでも拝見することが出来て身近に感じられる様になりました。出雲大社も大変賑っておりました。

全国各地の神社へのお参りの方も増えている様子であります。パワースポットもさること乍ら、この神社ブームは不安定な、落ち着かない暗くて長い心のトンネルから早く抜け出したいという願望から、又客観的に見て現在日本の置かれている立場からしても、心の拠り所である私共日本人のＤＮＡに目ざめ、いわばアイデンティティと自信を取り戻して行こうとする気風が自然発生的に湧き出て来たものと思います。

日本の伝統文化や日本民族としての心の在り方を得る為に昔ながらの神祭りに関心が持たれ心の安らぎを得るだけでなく、より良い日本を取り戻したいという国民のいわば切なる「世直し願望」も含まれている様に思われます。

そう云う意味で当宮も式年大祭や奉祝大祭をご奉仕させて頂き、多くの参詣者でご社頭が賑ったことはその一翼を担わせて頂くことが出来たと思っております。

御鎮座九百五十年の式年によって、より一層高められた八幡大神様のご神威の余光が輝き亘る新春のご社頭に是非ともお参り頂き、佳き幸運をお受けになり、ご神縁を（大神様との絆）を更に更に深く結んでいただき、今年もまた大神様の聖なる波動に感応され幸せ多き年でありますようお祈り致し年頭の挨拶とさせて頂きます。

明けましておめでとうございます

平成二十六年甲午歳正月

一日　観世流能楽師野村四郎氏奉納　神能『翁』
二日　小笠原流騎馬神事　蓋目の儀・大的式

新春の幕開けを告げる一番太鼓が、宮司により打ち鳴らされる

平成26年の年明け。昨年は伊勢神宮の式年遷宮により日本の甦りの年となりましたが、奇しくも当宮でも御鎮座九百五十年式年の年でありました。

そして御鎮座九百五十一年の新春。鎌倉幕府の御成敗式目に「神は人の敬により威を増し、人は神の徳によりて運を添ふ」と記されていますように、より高められた、新たな神々のお徳を慕い、より良い幸運を頂かれますよう、多くのご参拝の方々をお待ち致しております。

元旦午前零時、一番太鼓とともに開門。観世流能楽師野村四郎氏ら一門により**神能「翁」**の一番が奉納されたのち、**厄除開運大祈祷祭（一番祈祷）**が宮司奉仕にて斎行。次いで新春初祈祷祭が順次奉仕されます。明けて元旦午前8時より**歳旦祭**が斎行され、この年の皇室国家の安泰、世界平和、氏子の安寧が祈念されます。

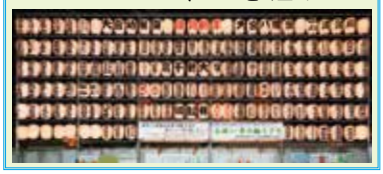
2日午前には小笠原流新春除魔神事**蓋目の儀・大的式**。弓威により一年の邪悪を祓います。そして3日には皇位の大元を寿ぐ**元始祭**が奉仕され大宮八幡の一年が始まります。

新春献燈提灯奉納のご案内

多くの初詣参拝者をお迎えするに当り、皆様方のお名前を入れた献燈提灯を掲出させて頂き、ご社頭を尚一層賑々しく飾らて頂きます。左記によりご献燈を賜りたく宜しくお願い申し上げます。

記

掲出期間　1月1日から2月3日まで
初穂料　一燈一〇、〇〇〇円
申込締切　12月20日（郵送は19日必着）



平成二十六年 新春の祭典と主な行事

1月1日　神能「翁」
1月1日　厄除開運大祈祷（一番祈祷）
1月2日　歳旦祭
1月3日　小笠原流蓋目（ひきめ）の儀・大的式
1月7日　元始祭
1月15日　昭和天皇祭遙拝
1月25日　古神札焼納祭（どんど焼き）
1月26日　初天神祭［大宮天満宮］
2月3日　文化財防火デー消防演習
2月4日　節分祭
2月11日　初午祭［大宮稲荷神社］
2月下旬　紀元祭
3月春分　春季皇霊祭遙拝
4月3日　桜まつり
4月29日　神武天皇祭遙拝・本宮遙拝
5月3日　昭和祭・春の弓道奉納射会
～
5月5日　わかば祭り（春の大祭）
　　第一日ノ儀　こどもの祭り・稚児行列（3日）
　　第二日ノ儀　植樹祭［苗木配布］（4日）
　　当日祭（尚武祭）（5日）
5月14日　裏千家献茶式
5月16日　御嶽榛名神社例祭［御嶽榛名社］

毎月1日　朔旦祭
毎月15日　月次祭
毎月25日　大宮天神 月次祭
※どなたでもご自由にご参列出来ます。

毎月・お朔日（ついたちまい）参りを致しましょう

謹賀新年

平成二十六年 元旦

大宮八幡宮

代表役員宮司　鎌田紀彦

責任役員　瀬沼宏章　内山誠章　岩崎太良　藤枝宏友　梅田清徳　五本木治

議長　青木島龍雄　松澤四郎　黒浩

団　細野修三　鈴木憲章　齊藤美夫　岩崎太良治　広田主雄　岩田文

監査　葉梨俊郎　鈴木憲章　齊藤洋一

総代

大宮地区　末柄哲男　青木龍雄　小松春樹　関口治　請井又雄　荒井勝治　五本木昭雄　徳治一

方南南地区　吉間武彦　内山誠郎　三枝太郎　相川貞雄　黒澤浩一　三枝栄治

方南北地区

和田東地区　玉村恭男　笠原紀一　齊藤洋一　佐野晃央　松村康夫　梅田清

和田西地区　葉梨俊郎　森川純一　藤枝宏友　浅沼静男　飯川朝男　高今資

松ノ木地区　小川宗次郎　瀬沼宏章　松本武治　島田文雄　太田正将　川瀬忠一　松沼寿男　島島四郎

相談役　木田千　高橋城　田住夫

兼務神社総代会長

堀ノ内熊野神社　渋谷達雄

成宗白山神社　岩田和保

尾崎熊野神社　安藤雄次

大宮八幡宮敬神婦人会（りんどう会）　会長　鎌田民枝

大宮八幡宮氏子青年会　会長　井川邦夫

御鎮座九百五十年式年奉祝大祭・奉納神事

御鎮座九百五十年 式年奉祝大祭を斎行

昨年平成25年は康平6年（1063）、源頼義公と義家公父子により京都の石清水八幡宮から御分霊が勧請され、当宮が創建されてより御鎮座九百五十年の式年の佳年を迎え、5月5日には**御鎮座九百五十年式年大祭**が神社本庁の献幣使として田中恆清神社本庁総長（石清水八幡宮宮司）のご参向を仰ぎ、全国八幡宮連合幣の奉幣使として穴井伸久連合綜理（宇佐神宮宮司）を始め、各界多数のご参列のもと、盛大厳粛に斎行されましたが、大宮八幡大神様の御神威御神徳の更なる発揚を祈念し、9月13日より16日の間、**御鎮座九百五十年式年奉祝大祭（大宮八幡祭り）**を斎行、16日には当宮初の祭事として**献花式**も催されました。

期間中は14日夕刻の**宵宮祭**に続き、15日午前、神社本庁献幣使として松山文彦東京都神社庁長（東京大神宮宮司）のご参向のもと**式年奉祝大祭並びに氏子奉幣祭**を斎行、当宮役員総代・氏子崇敬者、また橿原神宮栃尾宮司等全国神社関係者等190名が参列されました。大前には、式年大祭で本宮石清水八幡宮より特別ご下賜の勅祭・石清水八幡祭御花神饌12台が奉陳される中、定刻午前10時祭典を開始、国歌斉唱、御扉開扉に続き献饌、裏千家ご奉仕により茶菓が献じられて宮司が祝詞を奏上、御鎮座九百五十年の式年を寿ぎ奉り、世界平和・皇室国家の安泰・氏子崇敬者の平安を祈念しました。

次に神社本庁幣が大前に献じられて献幣使が祭詞を奏上。ついで氏子幣の奉献が行われ、まず本年度副奉幣使（副祭礼委員長）の岩崎責任役員が大宮・方南南・方南北・和田東・和田西・松ノ木の氏子6地区よりの浄財を氏子幣として大前に捧げ、奉幣使（祭礼委員長）藤枝責任役員が氏子祈願詞を奏上しました。

次いで幼稚園園児による神楽朝日子舞と巫女4員による浦安舞が奉奏されたあと玉串拝礼が行われ、式年奉祝大祭を恙無（つつがな）くご奉仕致しました。

尚、当日の早朝より台風の影響で豪雨となり、朝の時点で「第28回神興合同宮入り」を中止の止むなきに至ったことは残念なことでありました。

奉祝大祭直会和やかに

式年奉祝大祭の祭典終了後、清涼殿を会場に直会が催されました。神宮遥拝、敬神生活の綱領唱和、神酒拝戴に続き宮司が挨拶。「本日は例祭であるが式年奉祝大祭としてご奉仕させて頂いた。九百五十年記念事業については一昨年奉賛会を結成、推進させて頂いているが、これより御鎮座九百年以降の事業の集大成として社殿バリアフリー化などの事業にいよいよ取りかかる」と報告。記念事業へのさらなるご奉賛へのお願いを致しました。

次いで、松山神社庁長が「今年は5月の出雲大社の大遷宮、10月の神宮式年遷宮そして本日の当宮式年奉祝大祭と神威発揚の年廻りの年」と祝辞。崇教眞光教団・岡田光央3代教え主のお祝いの挨拶のあと姉妹友好神社宮城・竹駒神社千葉宮司の発声で乾杯、和やかな懇談に移りました。

御鎮座九百五十年記念事業 ご奉賛のお願い

記念事業の主な概要

◇第一期事業

一、御社殿向拝バリアフリー（北側）スロープ設置工事
一、御社殿向拝階段（南・北）屋根掛け工事
一、御社殿向拝階段手摺り（南・北）増設 バリアフリー整備
登り高欄（檜）及びクネット手摺り設置工事
一、南参道鳥居扁額の補修工事
一、弓道場振武殿改修工事
一、表参道石階段手摺り（二之鳥居・三之鳥居） バリアフリー整備
高欄風手摺り（アルミ）及びクネット手摺り設置工事
一、御社殿内拝殿御帳・外拝殿及び神門帳の新調
一、表参道大幟ポール（一対）設置工事
一、結婚式場清涼殿階段バリアフリー整備 階段クネット手摺り設置工事
一、結婚式場清涼殿「亀の間」改修工事
一、結婚式場清涼殿ロビー・階段 カーペット張替工事

※青文字の事業は、既に工事が完了した事業です。

一、祭典費・記念品費・事務費等諸経費 合計九九〇〇万円

◇第二期事業

一、結婚式場清涼殿バリアフリー整備
エレベーター設置工事
トイレ改修等バリアフリー付帯工事 合計五四〇〇万円
総事業費 一億五三〇〇万円

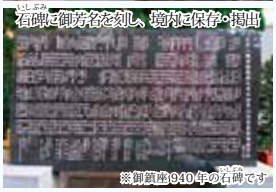
大宮八幡宮奉賛会

ご奉賛金の勧募

一口（壱万円）以上お願い致します。

尚、五口以上ご奉賛の方々には記念の石碑（いしぶみ）にお名前を刻し永久に保存させて頂きます。また、二口以上ご奉賛の方は、受付後、芳名板（板札）に随時お名前を掲出させて頂きます。

御芳名を芳名板（板札）に掲出致します



石碑（いしぶみ）に御芳名を刻し、境内に保存・掲出

※御鎮座940年の石碑です

いけばな小原流 献花式 初斎行

大宮八幡宮御鎮座九百五十年式年大祭奉祝並びに第35回目の献華いけばな小原流展を記念した「**いけばな小原流 献花式**」が大祭期間中の9月16日午前、斎行されました。

いけばな小原流は19世紀末、流祖小原雲心が「盛花」という新形式を考案、近代いけばなの道を開いた流派。水盤と剣山の使用は小原流の創始。当宮では毎年大宮八幡祭りに「いけばな献華展」をご奉納頂いておりますが、今回の献花式は式年大祭の奉祝と第35回目の献華展を記念して行われたもので、当宮では初の試み。

当日午前11時、小原流東京支部会員等130人が参列して献花式を奉仕。宮司祝詞奏上の後、お家元御名代、知地正和氏により献花の儀。御名代随員・奉仕員が花器、水差し、花材盆を所定の位置に進めたあと、浄衣着装の御名代が献花座に着座。若松3本、白菊3輪が花器に生けられ、大床案上に奉献されました。次いで宮司玉串拝礼に続き、御名代、参列者代表小原流東京支部堀江美瑛支部長が玉串を奉りて拝礼を行いました。

志野流香道 献香式斎行

新嘗祭の翌日の11日24日、御鎮座九百五十年式年を奉祝し、志野流香道御家元松隠軒蜂谷幽光斎宗玄宗匠様の御奉仕、志野流香道東京松隠会主催により、**献香式**が厳かに斎行されました（前回の御鎮座九四〇年記念に続き第2回目）。

祭典では、170名近い参列者が息を見張る中、粛々とお家元のお点前が進められ、整えられた香炉は雅楽の調べに乗せて奉奠され、清冽な香りがご神前に満ちわたりました。

また併せて聞香会も開催。茶室や清涼殿では名香席や組香席が行われ、310余名の門人らは奥深い香木の香を聞き楽しみました。

「神功皇后・應神天皇・武内宿禰乃図」奉納

当宮御鎮座九百五十年式年を奉祝し、女浮世絵師として著名な萬家一斎（みはしまり）さんが御祭神の御姿を描いた「神功皇后・應神天皇・武内宿禰乃図」が完成、去る4月25日に奉納奉告祭が斎行されました。

この作品は母子の愛情と臣下の忠誠の思いを應神天皇御生誕の御姿に描いたもので、将に九百五十年の式年に相応しい大作。萬家さんには水神に五穀豊穣を祈る「昇龍乃図」と御祭神親子三神の絆を鶏の姿に描き鶏鳴で世の穢れを祓わむとの祈りを込めた「鶏乃図」をご奉納頂いております。

扁額「子守神功皇后之図」奉納

いわき絵のぼり絵師・辰昇（本名吉田博之氏）が御鎮座九百五十年式年を奉祝して謹製に当たってきた扁額「子守神功皇后之図（※表紙）」が完成、9月10日に奉納奉告祭が執り行われました。

子守神功皇后之図は雲肌麻紙に岩絵具と純金切箔の技法で制作。神功皇后が應神天皇を慈しんでお抱きになられている母子図で、傍らには黒雲（厄）を振り払いお二人をお守りする武内宿禰の姿が描かれています。

親子二神の深い情愛と絆が見事に表され、子育八幡様の当宮に相応しい扁額の奉納となりました。

御鎮座九百五十年式年 奉賛者芳名簿（その4）

平成25年8月1日～12月1日
（※一万円以上のみ掲出、敬称略、順不同）

大宮地区

一金伍萬円
中野博文
新田涼子
小泉実

一金参萬円
㈱ストリート 代表取締役 中村喜昭
中村喜昭

方南南地区

一金壱萬円
谷口将太郎

一金弐拾萬円
岩崎治雄

一金七萬円
医療法人福栄照会 岩崎浩一

一金伍萬円
岩崎奎子

一金壱萬円
赤塚智高

一金壱拾萬円
飯高今朝資

じゅうにんのかい・新宴 大野とくよ

一金伍萬円
豊田麗子
大野かおる
池亀正之

松ノ木地区

一金壱拾萬円
㈱大場造園 代表取締役 大場淳一

一金伍萬円
江口陸郎

一金弐萬円
伴和憲

一金壱萬円
横瀬富一

社務所扱

一金壱百萬円
志野流香道 東京松隠会

一金壱拾壱萬円
保芦將人

一金壱拾萬円
梅田良一
中村裕之

一金八萬円
山東亜希子
山東洋子

一金六萬円
顎窪デンタルクリニック 山下道也（計 参拾六萬円）

一金伍萬円
伊藤好彦
金春玲子
小林誠光
南條幸緒
旭レストラン 出目金
松本淳一郎
中島由美子
中島武志
岡村将

一金参萬円
土屋光基
永和幸子
大田佳子
溝越節子

一金弐萬円
安藤雄次
上林綾子
木越正雄
荒田敏昭
阿多壽次（計 八萬円）

一金壱萬円
外山フジエ（計 六萬円）
高橋千恵（計 弐萬伍阡円）
平野健治
石松尚典
本杉一男
㈱サンドラコンサルティング 代表取締役 奥山真道
浅地伸子
秋田千代子
松元ふみ代
草薙久美子
松平乗昌
宮本泰行
尾崎定重
櫻井仁子
服部晴彦
菅原京子
今野聰
迫中瞳
桒田久義
長浜和幸
長崎武彦
㈱オリンポス 代表取締役 榊原三榛
産本眞作
谷口洋平

大作「皇」をご奉納

御鎮座九百五十年式年奉祝大祭に参列された崇敬眞光教団・岡田光央教え主よりこのほど書の献納を頂きました。ご奉納頂いたのは作品「皇」の大作。岡田教え主は高円宮賞受賞の書道家手島泰六としても著名。平成21年には書道界最高の賞である高円宮賞を受賞。海外にも広く「書」を普及浸透させる活動を展開されています。

「皇」の一字は平成20年の「イーグルドニースグランプリ」でグランプリ賞を受賞。同氏はまたカンヌ国際グランプリなどでも作品が受賞されるなど国際的にも高い評価を得られています。尚、厳父故手島右卿翁は「一字書」に言霊の響きをとらえ、書道芸術の国際的評価を高め、一時代を画した我が国書道界の第一人者です。

式年を奉祝し歌碑建立

桃の歌人と親しまれる和田在住の女流歌人・大野とくよ女史の歌碑が境内大宮天満宮前の梅林の一角に建立され、去る11月11日**奉納奉告祭と歌碑清祓除幕式**が行われました。

此度の歌碑建立は御鎮座九百五十年式年を奉祝し、また大野女史の卒寿を記念して行われたものです。

当日午後、社殿での奉納奉告祭に続き、歌碑竣功清祓並びに除幕式が行われ、宮司、五本木実行委員長以下記念事業奉賛会実行委員と大野女史、藤枝宏友建立発起人代表らが左右の引綱を引いて除幕の儀を執り行いました。

切り画「赤富士」奉納

精密でダイナミックな色彩の切り画を創作する切り画家風祭竜二氏が、この度の御鎮座九百五十年の式年を奉祝して、昨年世界文化遺産に登録された富士山をモチーフに、朝日に照らされ白雲たなびく赤富士を切り抜き奉納されました。

なお、氏の作品は、当宮結婚式場清涼殿の一室に「風祭竜二切り画の世界ミニ展」と題して、この他の作品20数点と共に展示されており、ご自由にご覧頂くことが出来ます。参拝の際は、どうぞお立ち寄り下さい。

第一期バリアフリー整備事業
表参道石階段手摺り設置工事 起工奉告祭 起工清祓式

御鎮座九百五十年記念事業の第一期事業の一つである表参道の石階段手摺り（一の鳥居・二の鳥居）バリアフリー整備工事において、緑豊かな景観に充分配慮した高欄風手摺り（アルミ）とクネット手摺りを設置する工事の**起工奉告祭**を12月1日の師走朔旦祭に併せて斎行。

翌2日には表参道二の鳥居前階段に斎場を設け、工事の**起工清祓式**が執り行われ、五本木奉賛会実行委員長をはじめ、奉納者の青木龍雄総代と有間睦子氏の姉弟、工事関係者らも参列し、工事の無事安全を祈願致しました。

御鎮座九百五十年式年記念
フォトコンテスト開催中

当宮の自然や行事風景を、プロ・アマ問わず写真愛好家の方々の目で写し撮って、その作品を八幡大神様にご奉納頂き、平成26年のわかば祭り（春の大祭）期間中に展示し、ご参拝の皆様に楽しんで頂きたく、御鎮座九百五十年式年の奉祝行事としてフォトコンテストを開催致しております。

応募期間　平成26年3月31日まで

Aコース：２Ｌサイズ部門
Bコース：４ツ切サイズ部門

大宮八幡宮に関係した作品であれば、風景・人物・行事等テーマは自由です。

但し、各神事での撮影禁止事項をお守り下さい。

両コース共に、写真店での現像にてご応募下さい。（一人５点まで）

応募作品についての注意事項は、社頭やHP上にて要項をご確認下さい。

協力写真店

ホッタカメラ本店（浜田山）
フォトグラフ三光堂（大宮八幡宮入口）
パレットプラザ永福町店（永福町）
カメラハウス本店（久我山）
ストックワーク（中野）

◆応募票に必要事項を記入して、右記協力写真店に持ち込むと、参加作品に限りプリント代20％オフの特典があります。

大宮八幡宮 早春の行事

古札焼納祭（どんど焼き）斎行

新春除災の恒例行事、**古神矢・古神札焼納祭（どんど焼き）**が小正月の1月15日午前、当宮境内で斎行されます。どんど焼きは宮中の左義長の儀式に由来する小正月の火祭りの行事。当宮では午前10時、社殿にて月次祭に併せ**焼納奉告祭**を斎行。ついで午前11時半より神門内特設斎場にて**焼納祭**を奉仕。神門内特設斎場に積み上げられた古神札古神符、注連縄などの山に古式に則りおこされた浄火により点火され、大祓詞を奏上、一年の除災と招福を祈ります。

また境内では当宮敬神婦人会（りんどう会）により『厄除ぜんざい』が振る舞われます。

初天神祭を奉仕

毎月25日は天神様菅原道真公のご縁日（月次祭）。特に1月25日は初天神とされ、当宮でも午前10時より境内大宮天満宮で**初天神祭**が斎行され、学業成就・技芸上達が祈念されます。どなたでもご参列頂けますので、春の受験シーズンを控えた時期、多くの皆様のご参拝をお待ちしております。また梅のほのかな香りが心を癒す「梅ケ香御守」も社頭にて授与されております。

文化財防火デー 消防演習

1月26日は文化財防火デー。戦後に起きた奈良・法隆寺金堂壁画の放火焼失の教訓からこの日が設けられ、当宮でも毎年**消防演習**が実施されております。

この日午前、社殿より出火との想定で訓練を実施。初期消火・通報・避難誘導に続き、杉並消防署、同消防団、当宮自衛消防隊による一斉放水訓練が行われます。また地元大宮町会の方々などにより消火器による初期消火訓練も実施されます。

節分祭 邪気を祓う追儺（ついな）の神事

2月3日は節分。節分は本来立春、立夏、立秋、立冬のそれぞれ前日の日を指しますが、特に立春前日だけが節分と呼ばれ、この日に今年一年の邪気を祓う追儺の儀など神事が行われます。

当宮ではこの日午前10時より**節分祭**を斎行。祝詞奏上に続き桃の弓・葦（あし）の矢で「天・地・人」の魔を射る追儺の儀を奉仕。ついで当宮幼稚園児が鬼に扮して、社殿大前にて**豆撒き神事**が行われます。

厄除開運大祈祷（一番祈祷）

元旦の午前零時、**神能「翁」の**奉納に続き、その年最初の祈願祭である**「厄除開運大祈祷（一番祈祷）」**が宮司奉仕により執り行われます。

この祈祷にご参列希望の方は、新春初祈祷の予約申込みを12月20日までに事前にお済ませの上、大晦日12月31日午後11時20分から40分までに神門横祈祷受付で一番祈祷参列受付票をご提示下さい。

※先着50組（定員となり次第締切）

※大晦日当日の受付は致しません。

新春初祈祷 企業団体祈祷も

新春に当り氏子崇敬者の皆様の新しい年のご繁栄をお祈りする**新春初祈祷**を連日ご奉仕させて頂きます。

又、企業・団体様の仕事始めに合わせて、更なるご発展を祈る祈願祭もご奉仕しております。ご祈願の際は代表様・従業員の皆様もお揃いでご昇殿頂きます。この新春にお揃いでご祈願を受けられまして、清々しい気持ちで一年の仕事始めとされては如何でしょうか。

新春祈祷・企業団体祈祷をご希望の方は、ホームページ又は社頭の申込用紙に必要事項をご記入の上、ご予約をお願い致します。

※ご神札には、ご記入頂いた祈祷名と代表者名を浄書させて頂きます。

どんど焼きにご協力のお願い

ご神札等をお納め頂く際に全て点検・選別させて頂き、神社関係以外のもの・燃えないもの・有毒物質の発生の恐れのあるもの（プラスチック製品等）・包装紙は、その場でお持ち帰り頂いております。

◆御守り・古神矢・古神札類（他の神社のも可）及び正月飾りのみお預かり致します。

◆人形類は、別途ご社殿におきまして人形感謝祭を斎行してからお納め頂きますので、直接祈祷受付所へお申し出下さい。（※但し、ぬいぐるみはお預かり出来ません）

大宮稲荷神社初午祭奉仕

如月4日は、今年の初午の日。和同4年（711）、2月初午に稲荷大神が京都の伏見の峰に天降られたとの縁起から全国稲荷社ではこの日初午祭が奉仕されます。

当宮でも午後1時より境内大宮稲荷神社で**初午祭**を斎行。氏子崇敬者より奉納の朱幟り二百数十本が立ち並ぶ中、今年の五穀豊穣・家内安全・商売繁盛が祈られます。

この他、堀内熊野神社・成宗白山神社・尾崎熊野神社・谷中稲荷神社の各稲荷社でも各々初午祭が執り行われます。

初午のぼり奉納募集

お稲荷様は、商売繁盛・家内安全のご利益のある神様です。本年も商売繁盛・家内安全等を祈願の「朱色のぼり」を大宮稲荷神社のご社頭にご奉納賜りますよう、ご案内致しお願い申し上げます。

一、朱色のぼり一口三、〇〇〇円（出来れば一対二口以上でお願い致します）

のぼりには、御氏名（又は会社名）を入れさせて頂きます。

紀元祭並橿原神宮遥拝

2月11日建国記念の日は元の紀元節。この日我が皇室の御祖である初代神武天皇が大和橿原宮にて即位され、今年は皇紀2674年になります。全国津々浦々では奉祝の諸行事が催されますが、当宮でも午前10時より**紀元祭並びに橿原神宮遥拝**を斎行致します。

社殿にて紀元祭を奉仕の後、清涼殿特設遥拝所にて橿原神宮を遥拝、参列者の皆様とともに「紀元節」を歌い神武肇国をしのび、聖寿萬歳を三唱して国の隆昌を祈ります。

春満開 桜まつり開催

当宮を中心とする和田堀公園一帯は善福寺川沿いに数千本の桜が春の訪れと共に一斉に咲き誇ります。これら桜の開花に合わせ3月下旬より**大宮八幡 桜まつり**を開催。期間中の土曜・日曜に限り、午後8時まで開門し、夜間参拝と桜満開の和田堀公園への通り抜けが行われます。

勧学祭・ランドセルお祓い式

古来より人生の節目には神社に詣でて、子供の無事成長や家族の健康を祈願してきました。現代では、学校への入学も人生の大きな節目であり、「人生儀礼」の一つと言えるでしょう。今春卒園・小学校入学を控えたお子様を対象に、今日までお子様の成長を見守って下さった氏神様に詣でて感謝を捧げると共に、改めて今後の無事をお祈りする**勧学祭・ランドセルお祓い式**を執り行います。

これから毎日背負う新しいランドセルをお祓いして、子育て八幡様のご加護を戴き、6年間の学校生活の充実と交通安全を祈願するお祭りです。ご家族お揃いでご参列頂き、晴れやかにご入学の日をお迎え下さい。

毎月お朔日参りに 月参り御幣守護

当宮では古くより朔日（一日）、十五日に月参りをされる参拝者の方々が多く、こうした方々に年間を通じて八幡大神様のご神威をお受け頂こうと、毎月の朔旦祭に併せてお朔日参り「**月参り御幣守護**」の祈祷を奉仕しております。

月毎にお申し込みの場合初穂料3，000円、年間一括でお申し込みの際は初穂料30，000円にて斎行させて頂いております。

新春厄除け祈祷のご案内

厄年は、古来人生の節目として特に気をつけなければならないとされている年回りです。厄除けのお祓いをお受けになり、清々しい一年に致しましょう。

平成二十六年 厄年表（数え年）

	前厄	本厄	後厄
男性	平成 3 年生(24歳)	**平成 2 年生(25歳)**	昭和64年生 平成元年生(26歳)
	昭和 49 年生(41歳)	**昭和 48 年生(42歳)**	昭和 47 年生(43歳)
	昭和 30 年生(60歳)	**昭和 29 年生(61歳)**	昭和 28 年生(62歳)

	前厄	本厄	後厄
女性	平成 9 年生(18歳)	**平成 8 年生(19歳)**	平成 7 年生(20歳)
	昭和 58 年生(32歳)	**昭和 57 年生(33歳)**	昭和 56 年生(34歳)
	昭和 54 年生(36歳)	**昭和 53 年生(37歳)**	昭和 52 年生(38歳)
	昭和 30 年生(60歳)	**昭和 29 年生(61歳)**	昭和 28 年生(62歳)

※本厄の前年は前厄、後年は後厄にあたります。厄年に限らず、除災招福の厄除祈願を受けることが出来ます。

杜の話題

第13回十五夜の神遊び開催

式年奉祝大祭の賑いも落ち着き虫の音もすだく9月21日の夕刻、式年奉祝の**十五夜の神遊び**が行われました。

今回の「月の音舞台」は、尺八奏者として国内外で注目を集める「き乃はち」氏を迎えての奉納演奏。氏は、第4回の月の音舞台にも奉奏。今回で2度目の出演となりました。

当日は神前に並べられた約1，200基の竹燈にご参列の皆様お一人お一人の手によって火を灯し、ご本殿で祭典を斎行。その後、神楽殿にて雅楽と神楽舞の奉奏を行い、午後7時より、き乃はち氏とバイオリン伴奏竹内純氏の奉納演奏。名月に照らされ、鎮守の杜に響き渡る澄んだ音色は、深く静かに心に染み渡り、ご陪観の方々を雅びと幽玄の世界へと誘いました。

式年遷宮遷御の儀遥拝式 神嘗奉祝祭斎行

神宮第62回式年遷宮遷御の儀が皇大神宮では10月2日、豊受大神宮では同月5日に天皇陛下の御治定を得てそれぞれ厳かに斎行され、2日の内宮遷御の儀には当宮宮司も特別奉拝員として参列。また同時刻の午後8時より当宮にて**遥拝式**を斎行致しました。

そして伊勢神宮の年間千六百余を数える諸祭典の中でも特に重儀とされ、遷御後初めてとなる10月17日の神嘗祭に、宮司以下祭員奉仕により**神嘗奉祝祭**を中祭にて奉仕。祭典終了後、遥拝所にて宮司以下参列員の皆様と共に**神宮神嘗祭**を遥拝致しました。

新嘗祭厳かに斎行

新穀を大神様にお供えして収穫を感謝する**新嘗祭**が11月23日午前9時より執り行われました。

大宮幼稚園の園内の稲田で園児等が丹精込めて育てた初穂の懸税を始め、兵庫県や新潟県の篤農家からの新穀、氏子崇敬者の篤志家の方々から献納された野菜や菓物などが、庭積神饌として大前に溢れんばかりにお供えされ、責任役員・総代・りんどう会役員他約120名参列のもと、宮司以下祭員奉仕により大祭式にて厳粛に斎行されました。

天皇皇后両陛下 印度御渡航行幸啓祈願祭 還幸啓奉告祭 斎行

天皇皇后両陛下には去る11月30日より12月6日までの間、インド共和国をご訪問されました。

これに合わせて当宮では、11月30日より毎朝の日供祭で御渡航のご安泰を祈願

戌の日詣りは 子育八幡さまの当宮で 安産祈願のご祈祷を！

※戌の日以外でも随時お受けしております

ご祈願の方には**安産腹帯（大宮八幡息長帯）**と共に、へその緒で結ばれたお母様とお子様が健康にご出産の時を迎えられます様にとの願いが込められた「**母子緒守**」と「**安産祈願絵馬**」を特別に授与しております。

戌の日早見表

（平成26年1月～5月）

1月	2月	3月	4月	5月
3日(金)	8日(土)	4日(火)	9日(水)	3日(土)
15日(水)	20日(木)	16日(日)	21日(月)	15日(木)
27日(月)		28日(金)		27日(火)

■は大安の日です

御鎮座九百五十年記念事業に ご浄財のご奉賛をお願い致します

し、12月1日には**天皇皇后両陛下印度共和国御渡航行幸啓安泰祈願祭**を宮司以下祭員奉仕により中祭にて斎行。御帰国後の12月7日には**御渡航還幸啓奉告祭**を同じく中祭にてご奉仕申し上げました。

秋の交通安全運動出陣式

秋の全国交通安全運動初日の9月21日、警視庁高井戸警察署・高井戸交通安全協会の**出陣式**が当宮で執り行われました。

祓所での安全祈願祭のあと、境内大前で交通課長が人員報告を行って出動式。鈴木署長、寺嶋安協会長のオープンカーを先頭に婦人と男子の騎馬警官、白バイサイドカー、京王、関東のラッピングバスなどによる交通安全パレードが行われ、交通事故撲滅を呼びかけました。

東京都神社関係者大会　五本木役員表彰・祝辞

去る10月24日、明治神宮会館に於いて東京都神社総代会設立50周年記念の東京都神社関係者大会が開催され、五本木徳治責任役員が永年の神社護持の功績を讃えられ、記念表彰者２８６名を代表して表彰状が授与され、続いて役員は「今後とも斯界（しかい）発展の為に尽力したい」と謝辞を述べられました。

神宮大麻頒布式並びに氏神神社神符等奉戴式

平成26年の新春を迎えるにあたり、氏子・崇敬者や全国の立正佼成会会員の方々にお頒かちする**神宮大麻頒布並びに氏神神社神符等奉戴式**が11月6日に斎行されました。

五本木責任役員・総代及び各兼務神社役員、立正佼成会神札頒布責任者の小松茂登子様のご参列のもと、ご神前に於いて、昨年めでたく式年遷宮を終えた伊勢神宮のお神札である神宮大麻や各氏神大麻・大宮三宝荒神などの神札類の頒布始めを大神様に奉告後、ご参列の代表様方にお神札が授与されました。

また、12月中旬より、神職が各ご家庭にお伺い致しまして、神宮大麻や氏神様のお神札、三宝荒神

緑豊かな都心の杜（もり）で
絆深める和婚式

成人式
卒業式

衣装・美容着付・写真・初宮饗膳（ご会食）など承ります。

清涼殿　03(3312)7515

結婚式挙式者芳名（敬称略）

平成25年9月1日～平成25年12月31日

田中 裕太郎・玲子　窪田 仁・優子
古関 友朗・えりか　武井 利明・身奈
清水 暁弘・純子　澁谷 龍二・蘭芝
小柳津 清智・久美子　小林 健太・笑美子
降幡 宏・悠子　大久保 利亮・麻子
水出 寛之・絵津子　山下 俊輔・紗希
石澤 宣則・加奈子

第35回 杉並大宮菊花展

秋の恒例行事、**第35回 杉並大宮菊花展**が10月23日より11月24日まで、杉並大宮菊の会主催・杉並区後援にて開催。区内外の菊愛好家の会員より盆景や盆栽など約２５０鉢の出品を頂き、黄色や白・薄紫などの色取り取りの菊花で境内が彩られました。

また、今年の御鎮座九百五十年式年にちなみ、松ノ木在住の本橋利夫氏より「9・5・0」の文字菊が製作・奉納されました。

そして去る12月12日には、菊花展の表彰式が開催され、左記の通り各賞の受賞者が表彰されました。

第35回 杉並大宮菊花展受賞者

宮司賞　櫛田 晃一氏（国華金山）
杉並区長賞　五本木徳治氏（彩胡の朝）
会長賞　稲村 実氏（泉郷玉椿）
大宮八幡宮責任役員賞　倉本 栄子氏（国華聖者）
京王電鉄賞　三王 義昭氏（彩胡優美）
サミット賞　中村幸之輔氏（命芙光の朝）
みどりの会会長賞　本橋 利夫氏（大宮の雪）
審査委員長賞　倉本 晴雄氏（杉並の朝）
藤枝賞　青柳 和昌氏（多摩景勝）
末柄賞　五本木秀子氏（彩胡の朝）
八幡前通商栄会賞　関 富雄氏（国華聖者）
金賞　佐久間亨氏（彩胡の矢車）
〃　木下 武雄氏（久米満山）
〃　後藤 明弘氏（国華聖者）
新人賞　青木 弘次氏（国華聖者）
宗木好一郎氏（竜白）

様の御神札等をお頒かちしております。ご希望の方は、当宮社務所、若しくはお近くの当宮責任役員・総代にお尋ね下さい。

新年には各ご家庭や会社の事務所の神棚に、新しいお神札をお祀りして清々しい一年に致しましょう。

東京都神社保育連合会 園長・教職員研修会

都内の神社関係の保育園・幼稚園で組織される東京都神社保育連合会の園長・教職員研修会が11月27日、当宮清涼殿にて開催されました。

先ず研修会では、講師に高崎真氏（㈱チャイルド社）を迎え、「保育で絵本を楽しむコツ―絵本は大切な心の栄養です」と題して講演が行われました。続いて社殿での開催奉告参拝では、大宮幼稚園園児6名が神前で朝日子舞を奉仕。百余名の参加者の前で日頃の練習の成果を披露しました。

毎月25日 天神月次祭斎行

天満大神様のいよいよの御神威発揚を願って、昨年7月の式年大祭奉祝の**納涼 大宮天神祭り**を斎行してより、毎月25日の午前10時から大宮天満宮に於いて、**大宮天神月次祭**をご奉仕致しております。

この天神月次祭にて学業成就・合格祈願等をご希望の方は、当日時刻までにお申し込み頂き、ご祈願祭をお受け下さい。また、どなたでもご自由にご参列頂けますので、ご参拝方々ご参列下さい。

第35回世界連邦平和促進全国宗教者・信仰者東京大会 世界平和の祈り

11月28日、「自然災害から受け継ぐもの」―わたしたちは忘れません―を大会テーマとして、第35回世界連邦平和促進全国宗教者・信仰者東京大会が杉並の立正佼成会本部で開催。大会の始めにあたり大聖堂で各宗教による「世界平和の祈り・東日本大震災慰霊の祈り」が行われ、まず神社神道を代表して氏神神社の当宮宮司らが奉仕。千数百人を超える参加者らを修祓で祓い、祝詞を奏上致しました。

次いで仏教、教派神道（神道扶桑教）、キリスト教、イスラーム、新宗教（立正佼成会）の順に、各宗派が各々の形式で平和を祈りました。午後より東京大会が法輪閣で盛大に開催されました。

りんどう会だより

当宮敬神婦人会（りんどう会）では9月3日、第64回全国敬神婦人大会が島根で開催され、役員らが出席。9月9日には、御鎮座九百五十年式年奉祝大祭を前に御垣内清掃奉仕が行われました。

11月11日には、当宮の姉妹友好神社である宮城県岩沼市鎮座・竹駒神社の千葉博男宮司並びに竹駒敬神婦人講（武田静江講長）の皆様が当宮へご参拝。役員との懇親が行われました。

当会では随時会員を募集しておりますので、ご入会希望の方はお気軽に事務局（社務所）へお申し出下さい。

杉並大宮花笠祭り

初冬の風物詩、**第23回 杉並花笠祭り**が12月14日（※毎年12月第2土曜日開催）に開催されました。

先ず社殿にてサミット並びに関連企業の皆様が参列し開催奉告祭。

表参道には山形の農産物や特産品の露店が立ち並び、いも煮や地酒の振る舞いも行われ、また午前・午後の2回、花笠踊りのパレードが賑やかに奉納され、境内は、終日多くの人で賑わいました。

りんどう会研修旅行 川越へ

りんどう会の懇親旅行が11月12日に行われ、鎌田会長を始め会員30余名が参加しました。

7回目を数える今回は、小江戸・川越の旅。当宮を出発した一行は、先ず「川越八幡神社」にて正式参拝、榊原宮司よりご由緒の説明。次いで「川越氷川神社」に参拝。午後は「五百羅漢（ごひゃくらかん）」で知られる「喜多院」を拝観後、蔵造りの街並みを散策。江戸情緒溢れる川越の街を満喫した一日となりました。

氏子青年会だより

式年奉祝大祭を控えた9月7日、早朝より氏子青年会の皆様により、当宮表参道・方南通りの注連縄張り奉仕が行われました。又、12月10日には役員会・忘年会を開催。恒例となった年末の門松作りも12月28日に行われ、立派な門松が社頭に飾り付けられ、平成26年の新春を迎える準備が整えられました。そして、新春元日には神門前にて振舞い酒（限定３００）と八幡そば等の模擬店、12・13日は模擬店のみ行います。

初宮詣芳名帳

（平成25年7月26日～平成25年11月23日）

お子様のお健やかなご成長をお祈り致します

有吉萌葉　羽田野さくら　瀬藤伶旺　池田康星
棚橋円　本田陽莉　毛塚莞太朗　マルキン椛
大沼晴渡　若林杏　山田波瑠　清見幸将
中川堪介　船越悠愛　竹藤夕葵　門脇拓己
佐野ひま　野部あず咲　蓬田想介　木村美優
赤木萌奈　星指朝陽　益子のど夏　陽夏香
渡邊諒士　長尾翔生　條々姫希　中山智晴
河野れい　清本百香　髙橋優大　寿時映月
丹柚季　町田栞那　中野咲和　日高隼斗
熊﨑琴音　坂本晴　奥村澪　南あおい
鴇﨑雄　池谷陽愛　永田莉央奈　若山穂垂
駒野谷真衣　江畑優姫美　長橋汐夏　森武充晴
溝川奈乃果　力丸浩士郎　佐藤慶直　上野山拓
森晃大　河野新　千國美月　米崎琥太郎
平出千明　小池慶信　渡部珠生　北村せとか
阿部光希　足立柚稀　富松汰斗　髙橋遼介
前島りあ　山﨑太一　金田剛典　梶山祐希
河井咲樹　藤戸虹介　宮澤晴季　堤謙心
柳澤杏　大芦海生　吉田賢弘　西出藍子
荒木百乃　城野珠希　五十嵐小夏　大森康介
片貝双葉　宮原瑛　五十嵐江夏　藤裏晴輝
飯田海翔　水野谷樹　黒田和成　佐藤未来
早坂文奈　廣瀬颯人　伊藤波音　山田怜那
河本浩翔　稲村颯太　吉田清玲　宮下愛莉
渡邊樹　土屋眞莉花　木原愛斗　髙橋健翔
榎木天音　岩﨑諒真　松永美咲　二宮颯
塚原陽乃　若生凰佑　小嶋唯花　前田知輝
戸枝菜々子　佐々木湊　師藤水都　金崎果林
本間遥佳　佐々木竜生　佐久間梨緒　坂元凌
伊藤さや　武田碩景　小原貫輔　葛西十梨
須田萌々花　濵田宙　岡村陸　葛西十和
高嶋悠至　堺千郁　村上直優　森晴生

森井映智　高橋空太郎　蟻川輪
佐藤匠眞　國司侑秀　鈴木奏菜　金子遥希
濱崎宜太朗　川村佳里奈　加瀬巧海　木下來音
深田崇貴　田村昊大　岡村拓真　篠澤玲南
齊藤寿郎　池田美織　山田夏帆　三浦羽希
稲垣愛夏　雪山晃太郎　工藤慶一郎　野村洋太
佐藤璃柚　森井結樹　村上こはる　加納詢一郎
天野健　川下航世　飯田隆仁　三條蔵ノ介
梅原唯　日比野耀　柳井栄志　鈴木渚蒼
神尾祐月　牧原桜空　田中心穏　北頼将
清水莉生　猪又陽　池田春樹　山田悠翔
飯塚葉祐　原葵衣　徳山真百合　田口裕奈
五十嵐美結　三瓶雅京　川村瑠子　内堀怜音
山植帆夏　伊藤桂吾　鳴川華子　井上真之介
鴇巣紘大　大沼燈　北嶋晟　岩間葵
西野真央　増田龍人　粕谷悠喜　星野紗衣
印南柑那　飯島千絢　飯田朔太郎　西山悠弥
西潟彩楓　稲垣悠仁　楠理宏　野﨑海悠子
森下文華　廣本惺　地引秋乃　真﨑二衣花
清水理仁　井関友理　小山彰寛　加藤七穂
長田奈々　岩佐朋佳　北川夏埜　高綱時弘
四宮好夏　佐々木蒼太　窪田集　田中羽菜
服部七海　椎野爽太郎　村上菜緒　和田隼汰
揖斐友麻　加藤なつ　酒井謙　小木曽環
木下琴葉　石井翔清　大河原秀信　安部響生
新井勇貴　後藤立弦　川又大晴　山中仁琴
小山凛之助　橋本夏芽　則武廣樹　城所千歳
川田晴香　佐藤好恵　土屋彩夏　原口夏摘
岡田唯佳　高村勇人　荒井唯翔　渕上煌生
山田優稀人　山田京佳　鬼束実希　小林優花
梅田悠斗　中臣環子　竹内飛羽真　幅舘匡
中山真一　相川壮一朗　里吉芹　金芽理奈
田中葵以　神埜雄太郎　古元愛梨　西川晃
立川萌望　関根新　興津真由子　河野結月
木村万里奈　久保龍平　小松隼人　田中結里
天野凛々華　藤井蒼太　西尾為知仁　戸口綾乃
山本果凛　山下頼正　黒井司　大塚衣織
金川侑燈　齋田貴望　後藤杏
酒井奨真　平野真由

どんぐり通信

おおみやようちえん

神様と子供たち

大宮幼稚園の子供たちは、神様の存在をいつも心に置き、見守って下さっていることを心で感じながら、日々を過ごすことが出来ています。

年長組では、朝の集まりにおいて全員で挨拶をする前に、その日のお当番さんが前に立ち「神前拝詞」の掛け声をかけ、その後に「**おおかみさま　いつもお恵み　ありがとうございます　今日も一日　お守り下さいますよう　お願いします**」と唱え、二拝二拍手一拝を行っています。神社へ参拝に行った際や、拝礼作法を毎朝行うことによって子供達に自然と拝礼作法が身に付いていくようです。「家族で神社にお参りに行ったときに、とても上手に拝礼ができてびっくりしました。」と園児のお母様からお話を聞かせて頂くこともあります。

また、子供が悪いことをしてしまい、きちんとお話しなければいけない時などに私たち保育者は、神様にお力を貸して頂くこともあります。「神様は、ちゃんと見ていらっしゃいますよ。ちゃんとお話をすることが大切ですよ。」と伝えることで、なかなか口を開こうとしなかった子供が「はい……」と、言って口を開き、きちんとお話を始めたりします。子供たちにとって神様の存在はとても大きいのです。

そして、年長児になると神社の祭典で、順番に朝日子舞を奉納します。これも神様への感謝の気持ちを持って踊ります。子供たちが、神様に向かって真剣に踊る姿を見ていると、年長さんとして立派になった姿を、神様にしっかり見て頂けるまでに成長したのだと感じられます。「先生、踊り終わったあとに上手だったよって、神様の声が聞こえたんだよ」と神様が見てくださっていたことを子供達も心でよく感じて、踊っているようです。神様の前で踊れたことは、子供たちの大きな自信になって心に残っていきます。

日々の中で、子供たちが元気に楽しく過ごせることは、神様がいつも見守っていて下さるからだということを、いつも忘れずに子供たちと過ごしていきたいと思います。そして、子供たちの輝く笑顔、楽しい笑い声を届け、頑張る姿をいつも神様に見て頂けるように、頑張っていきたいと思います。

教諭　小島光代

横田結生　金子想以　吉田舜哉　小野葉中郎
宮田楓子　安達梨紗　中野瑛梨　桝田晴翔
一瀬晴飛　水見泰地　今井束咲　桝田藍里
針谷優希　亀田奈津実　中村汐莉　中永桔花
脇村健悟　沖山明日葉　加藤想大　国本朝陽
岡野紗葵　橋本瑛音　原野愛梨　菊地翔
林莉々夏　木下希澄　川路悟史　古口乃葉良
辻麻織　松田七海　古和夏芽　清水野々花
清水美緒莉　関晴太　伊倉珀　加藤駿太郎
杉村啓太　中島仁　山本優太　前田栞
山上夏暉　鈴木花　川合海空　石毛伶奈
古家杏夏　竹前純　コントレラ　佐久間咲綾
五島圭太　佐藤知来　瑠梨花　中井誠二
渡邊圭一　成田南実　由井晴翔　村岡美稀
佐藤恵茉　曽根和奏　渡邊裕里子　高橋玄
塩田彩友　松井美穂　飯田快都　切通羽菜
石田理乃　嶋遥翔　五十嵐陸翔　柴崎花歩
有本諒成　丸山花　古川航大　石井瑛里香
正田葵　竹林和奏　遠藤蒼大　森谷綾音
高橋悠人　小野寺悠真　竹田直生　藤田歩実
馬場龍之介　澁谷悠真　小尾環　梶谷麻央里
木佐木美優　加藤楓菜　藤波作空　高橋新
鶴見茉里花　森夏菜子　江口椎　阿部有希
西村孝幸　柘植史帆　門脇晴奈　仙波咲翔
中島悠斗　小室瑚子　金子修大　阿部凛輝
中島遥斗　鈴木翔琉　中島康晴　天野隼人
関樹　池上晃翔　片山華音　蓑谷紗来
吉野翔真　鈴木怜延　藤田凜　制野創謙
田島有紗　町田翔太郎　岩村和咲　柴田優菜
椎名華麗　宮脇穂乃　村山愛梨　菊池優哉
御澤亮太　小林楓　佐藤夏希　飯田憲杜
増子直希　神余豪　鈴木瑛太　有松應佑
宮下和也　菅沼桃花　河合結有　東耕之介
角結夏　濱崎心菜　淺野晴樹　高橋杏凪
永井莉咲　長谷川颯　長塚響人　牧歩悟
福嶋悠　長谷川侑愛　土田楓夏　竹尾悠輝
榛葉綾太　石井杏奈　安藤広人　柳澤理愛
田中仁一朗　久保田悠　小澤怜史　吉田紬
木原希　岩田実奈美　小笠原理仁　横山海咲
津田佳夏子　青海七夏　渡邊愛子　高橋稲羽

林利宇　牛奥颯太　榎本心咲　蓑田音
福島麟太郎　深澤夢乃　竹本夏乃　久保快斗
木之上大和　松永怜來　寛司悠人　石原海渡
榎本禮　藤本煌太　帽田悠斗　笠井千絵
高橋航世　鋤柄茉奈　金城芽依　片岡莉々夏
遠藤緒珠　武井陽香　坪井梨愛　内藤純奈
坂下幹汰　福元希夏　髙瀬雄矢　倉林瑚土
青木満優　中川彩映　下條蘭　石川凛
中野紗良　牧野有希　長津祐作　箭内優希人
谷垣宙　堀田愛紗　津金紗那　澁谷結衣
西井大翔　日坂律　河本倫太朗　浅野蘭丸
岩谷奎吾　齋藤和喜　國富大輝　高橋理紗
山﨑菜央　奥成美詠　宝妻まゆ子　林和毅
橋本仁　伊丹楓　木川和奏　近松恵汰
種村悠太　遠藤栞椰　前田諒　廣幡玲
秋本ふみ　甲斐陽向　山﨑桂　渡邊真海
添田柚菜　廣瀬瞬　橋本凜華　鈴木綾乃
吉田彩夏　佐藤亮太　岡田湊真　森俊樹
宍戸健太　野中柚花　齊木結香　加藤花愛
日當航太朗　戸﨑開仁　玉田めぐみ　菊池美羽
大熊莉緒　栗林ひより　君島杏菜　鶴田禮子
太田詩　志賀文実　阿部眞子　後藤亮介
家近悠生　松橋円　宮﨑汐梨　箱田結哉
櫻井椛乃　藤原颯太　三石朔太郎　佐藤大地
天野心晴　井出七海　横山俊介　加藤るり
松﨑美侑　本山結　平岡みづほ　高本雄太
鍋嶋千花　池上夏音　渡邊みくる　後藤峻元
栗橋衛司　岡生真　河原颯太　金杉遥太
山口栞　林虎次郎　田原瑛斗　小郷泰生
桐生凜花　山崎旺夏　宮﨑六花　太田波瑠
小林優月　加藤菜々　藤原翔　佐野栞梨
恒安希胡　氣田鈴奈　吉村愛里　河原由依
中みな美　櫻田啓太　中村隆人　小山結心
合田尚弘　内田壮哉　中村理人　古閑勝
武者結佳　藤原汐理　水井盟人　金子澪
櫻井いつか　中濱琉愛　小久江莉愛　平澤至
廣瀬大空　永代空阿　大沼應助　竹田柚葉
山田恵麻　安西亮　渡邊太陽　竹田夢羽
森野ひなた　森唯花　須永結月　堀江紬
三谷梨心　二口櫂大　川名莉咲　多賀敏峰

村上あゆみ　渡邊亘陽　鈴木凜　近藤友之助
岸田紗映　池上遥　伊藤はる　入江遥太郎
佐藤遥人　石川陽菜　松田航汰　志摩美来
古谷香京　阿彡佐和音　鬼島悠悟　川波燈利
金谷羽馬　稲垣蘭　井出大貴　金村英洋
竹内朔太朗　加藤乃愛　荒木芽衣　藤井帆海
川越洸　清水亮共　山口湊友　川瀬幸汰
草間奏和　山田泰己　渡辺舞奈　渡部紗矢
矢川輝佳　徳永羽南　新井咲智　永石莉央奈
矢川佳澄　中根郁　海老名倖菜　飯田凜咲
矢川諒佳　外谷怜大　山下瑠夏　近藤ひなの
飯澤裕康　三沢直大朗　大野結愛　鴨志田陽生
稲村柚乃　恩田結々　吉田鈴　石村美晴
田畑禮夢　佐藤夢眞　小林加奈　千葉陽奈乃
黒澤朔　久保慶太郎　原田向　石川百合子
青木嶺雄　津田琥太朗　羽鳥恭吾　相庭千迅
井上孟彦　酒井智万　伊藤綾香　香取賢吉
池田咲希　鏡谷奏太　吹上透真　髙山隆司
和賀井晴章　堤有里紗　鎌田遼　上床悠太
永井章大　松島有里　中澤彩葉　仲桝力
佐藤仁紀　上木陽太　田村梨紗　名取杏
玉井萌奈　棒田栞菜　中﨑健太　後藤光里
渡邊紫　三浦芽依　篠﨑陽翔　煤賀行人
大野真央　角倫太郎　谷垣和七奏　増田航太郎
白石雄大　菅谷光　湯川志保　八山明花莉
堤夏芽　坊野彩　高宮蕾斗　山田あいり
近藤ひまり　渡邊伊織　林直樹　齊藤明里
椿和静　平井楓華　仲野光　宮下弓弦
芦沼匠　平井朱灯　内谷莉乃　飯田友菜
一志美月　大西叶葉　今井時雨　石井大三
須田惠祐　猪俣空智　山村海夢　山中遥加
三浦由紀子　宮野翔伍　藤井柚羽　中野蓮哉
笠嶋碧斗　三浦和士　齋藤結衣　内田蘭丸
ガーナー華豊　杉岡礼菜　齋藤結美
大北絵梨奈　森岩絢香　谷合夕萌乃
山本拓実　高柴優光　加藤まりあ
大橋璃子　北川和歩　巴山瑛翔
橋村里彩　小島楓乃子　川上凪
徳永葉奈　木下竜之介　平俊太郎
篠原なみ　大久保瑛人　武笠凌芽

大宮幼稚園スナップ写真

運動会：人文字で鳥居を描く

お芋掘り：一つ一つ丁寧に

民謡踊り：神様に踊りを奉納

交通安全運動：お巡りさんになったよ

平成26甲午年 迎春

新年にはご祈祷（ご祈願）をお受けになり、清々（すがすが）しい一年に致しましょう

平成２６甲午年　元旦零時　神能「翁」・厄除開運大祈祷祭（一番祈祷）斎行

能楽師 野村四郎氏による神能「翁」が奉納

宮司奉仕により一番祈祷が執り行われる

一番太鼓と共に開門、参拝者が陸続と続く

清々しい初日の出を迎え、多くの参詣者で賑わうご社頭

新年の平安を祈り浦安舞奉奏（歳旦祭）

小笠原流新春除魔神事 大的式
蟇目鏑を放ち魔性を退散させる

新年のお神札（おふだ）・お守りを求めて

立正佼成会 庭野会長らご参拝

除災招福を祈る初詣参拝者ら

大　宮　第９８号
平成２６年 新春号
平成２６年１月１日発行
大宮八幡宮社務所

〒 168-8570
東京都杉並区大宮２-３-１
電　話 (3311)0105　FAX(3318)6100
Mail：info@ohmiya-hachimangu.or.jp

新春の
代表的な授与品